

児童発達支援事業(ハナイ)

事業所評価結果 (スタッフ)

配布数

6

回収数

6

100

%

4

年度

(評価実施日: 令和 5年 4月)

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない(わからない)	工夫している点、課題や改善すべき点等
環境・体制整備	①	利用定員が活動室、プレイルームとの関係で適切であるか	6			朝の会時、利用者・職員が集中するため人が多く圧迫感がある。1対1で関わりが必要な利用者が多いため致し方ないか…プレイルームは広く、十分に確保できている。活動中密にならないよう分散しつつ、1人にならない配慮も行っている。場所により死角があるので、都度注意。
	②	職員の配置数は適切であるか	5		1	配置としては多く感じる場面もある。状況により手薄になる場面はあるが、調整を行っていた。
	③	生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっているか また、本人の特性に応じ、設備等はバリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6			未就学にはいないが、車イスの出入りの際狭さを感じる場面がある。場面で構造化を行い、活動場所を明確にしている。引継ぎ時なども分かりやすいように所内は視覚提示を行い利用者が目で見てわかる配慮を行っている。
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達に合わせた空間になっているか	6			毎日必ず消毒・清掃を行い空気清浄機の使用をしているが、床の水滴、ゴミ埃等が落ちている場合がある。定期清掃で常に見落とし確認。環境に目を向け清潔を保てれば良い。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が意識して取り組んでいるか	6			朝の打合せ、会議・打合せで対応策を決め前日の振り返りを行い支援の検証をしている。別グループの食事の様子等の共有を行う。年間目標の設定を唱和し振り返りも行っている。新入社員のスタートから振り返りが定着されている。
	⑥	保護者向けの評価表の活用等によりアンケートを実施し保護者等の意向を把握し、業務改善につなげているか	6			毎年事業所評価を実施している。職員間で共有し、保護者の要望に応えられるよう改善に努めている。
	⑦	スタッフ、保護者への評価表の結果を踏まえ、事業所としての自己評価を実施するとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容をホームページ等で公開しているか	6			スタッフ・保護者のアンケート結果を毎年HPIにて公開している。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3	3		外部評価は行えていない。相談員は定期的にモニタリングを行っている。
	⑨	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6			全体会で定期的に行っている。オンライン研修や、外部講師を招き研修を実施。研修の機会が多く勉強になっている。
	⑩	アセスメントを適正に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で個別支援計画を作成しているか	6			そだちの記録・アンケートブックをもとにアセスメントを行い、利用者アンケートを事前に取り、保護者や子どもの要望や想いを反映して支援計画を立てている。

適切な支援の提供

⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6			利用者にはそだちの記録・サポートブック・発達検査の結果等を用いてアセスメントを取り現状把握を行っている。
⑫	個別支援計画には、ガイドラインの「提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6			発達支援・家族支援・地域支援を個人に合わせ、それぞれの項目に従って支援計画を作成し、無理のない支援内容を設定している。スモールステップで少しずつ支援の幅を広げたい。関連機関の名前も記載している。
⑬	個別支援計画に沿った支援が行われているか	6			担当主体で声を出し周知している。支援計画に沿って活動を組み、該当する子どもの名前と具体的に合わせ、1人1人様々な場面で計画を反映して支援している。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	6			活動担当者が計画を立案し、チーム内で周知・共有している。事業所内で活動項目の振り返りと、次年度の改善策を検討している。詳細を周知しチーム内で共有。
⑮	活動プログラムが固定化されすぎないよう、工夫しているか	5		1	あえて固定化することで子ども達の安定や定着を図ることもあるが、固定化されないよう見直しは都度行っている。ハロウィン・節分等、季節ごとの活動を行っている。年1回の見直しを行っている。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる提供及び個別支援計画を作成しているか	6			どちらも組み合わせ支援計画の立案。年に2回の支援計画書を作成し、無理なく活動に参加できるように取り組んでいる。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6			朝の打合せで当日の役割分担・特記事項・内容確認をし、情報共有を行っている。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	5		1	児発は終了後には行っていない。毎朝、前日の振り返りと、週に1度会議で情報共有。
⑲	日々の活動の様子や支援内容、個人の状況など、記録を取ることを徹底し、報告・支援の検証・改善につなげているか	6			連絡帳や打合せ記録に記載し、打ち合わせや会議時に支援の検証や改善に繋げている。
⑳	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	6			年に2回モニタリングを行い、支援計画の見直しをしている。担当者と話し合いを行う。
㉑	相談支援事業所のサービス担当者会議やモニタリングには、その子どもの状況に精通した最もふさわしい者が、参画しているか	6			現場リーダー・管理者が参画している。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と必要に応じて連携した支援を行っているか	6			電話などで必要に応じて連携している。相談員・SSW・主治医の方とも連携し、保護者から得た子どもの様子等を共有。
㉓	(医療ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	6			該当児無 担当者が連携をはかっている。

関係機関や保護者との連携	⑳	(医療ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	6			該当児無 整っている。ご家庭から共有されることも多い。	
	㉑	併用や移行の場合、保育所や幼稚園幼保園等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6			年2回共有会議を行っている。保育園や幼稚園の先生方とも共有会議を行い資料作成と配布にて情報の共有。	
	㉒	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6			就学時に共有会議を行う。先生が来所し、本人の様子を見て支援内容の共有や相互理解を図ることもある。引継ぎ資料の作成、共有会議を行い情報の共有。	
	㉓	他の事業所や、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5	1		外部講師による研修の実施、オンライン研修への参加。3法人合同で研修会を3年ぶりに行った。	
	㉔	保育所、幼稚園、幼保園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3	2	1	コロナ渦のため実施ができなかったが、交流会を実施している。	
	㉕	自立支援協議会子ども関係部会や知己の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	6			担当者がオンライン会議等にて参加していた。	
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5			送迎時、保護者に家や事業所での状況の情報共有や、連絡帳などを使用し共通理解を図っている。	
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	5			毎年希望者に実施。R4年度は2クール実施している。	
	保護者への説明等	㉘	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5			見学時、契約時に所長より説明。
		㉙	ガイドラインの「提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から、同意を得ているか	5			年2回の懇談の際に内容を説明し、保護者から同意を得ている。
㉚		定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5			引継ぎ時や連絡帳にて相談されることがあり、随時助言と一緒に考えることで支援を行っている。適切に助言できない場合はリーダーに助言を求める。	
㉛		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	4		1	今年度は保護者会を実施した。実施により保護者同士のコミュニケーションが取れたと思う。	
㉜		子どもや保護者からの相談や申し入れ等に対し、対応体制を整備(相談窓口の設置や周知)し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5			苦情解決窓口を設け迅速に検討し、適切な対応をしている。	
㉝		定期的に広報誌やホームページ、メールやお知らせ等を通じて、活動の概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に発信しているか	5			HPやブログの更新を行い、Eメッセージを活用し、活動予定・写真の配布とお知らせを配信している。	

	③⑧	個人情報等に十分注意しているか	5		第三者へ見られないよう保管場所を決め注意している。回覧後は所定の場所へ保管し持ち出しはしない。不要なものは都度シュレッダーへかける。
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意志の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5		子どもや保護者の状況に応じた対応をし、1人1人の特性に合った伝達方法内容で伝えている。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待したりボランティアを受け入れたり、地域に開かれた事業運営を図っているか	4		地域の方の招待はなかったが、体育教室やフラダンスの外部講師などは招いている。自閉症啓発日のオーナメントを地域の店に配布し周知を図った。ボランティアや見学者が多く、いつ見られても良いような意識が必要と感じる。
非常時等の対応	④①	緊急時対応、防犯、感染症対応など、必要なルールやマニュアルを策定し、スタッフや保護者に周知するとともに、訓練や研修等を実施しているか	5		避難訓練を毎月実施し、事業所の対応策について書面やメールにて周知している。
	④②	非常災害等の発生に備え、定期的に避難訓練等を行っているか	5		毎月実施し、1年を通し非常時の対応の仕方を学んでいる。
	④③	事前に、服薬やアレルギー、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	5		健康状態把握表を配布し記録に残す。個別確認し、調理活動時に意識している。変更の際は処方箋を提出してもらい、症状の出やすい状況・対応法の確認をし全職員にて共通理解をはかっている。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて医師の指示書に基づく対応をしているか	5		保護者の方から医師の指示を聞いている。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成し、事業所内で共有しているか	5		毎回、会議の際ヒヤリハットの共有を行い、週1回の会議時に振り返り記録を事例集としてまとめ共有している。
	④⑥	虐待を防止するため、スタッフの研修機会の確保等、適切な対応をしているか	6		GSK会議を開き、話し合いと共有を行っている。虐待マニュアルを作成し、動画やグループワークにて研修を行う。時折指示口調になってしまうことがあるため、本人に分かりやすい伝え方を意識している。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、保護者からの同意を得る仕組みを整備しているか	6		身体拘束を行う際には、保護者に同意書を記入してもらい、切迫性・非代替性・一時性の3つの要件を満たした場合は身体拘束を行うこととしている。
満足度	④⑧	子ども達は、通うことを楽しみにしていると思いますか	6		保護者から「楽しかったようだ」との声を聞くことがあり、楽しみにしていると思う。利用者の笑顔や落ち着いて過ごす様子を見ると、安心していただける場所なのではと実感する。明日も来たいと思ってもらえる努力をしている。
	④⑨	この仕事にやりがいを感じ、日々の支援に満足していますか	6		満足のいくことばかりではないが、利用者の成長や笑顔を見るとやりがいを感じる。支援方法を幅広くしていきたい。
	④⑩	法人・事業所は、サービスの質の向上を目指し、努力していますか	6		会議や打ち合わせ、振り返りを細目に行っており、利用者状況を共有し対策を練ることをしやすい体制になっており、自所が目指す姿として、10の奥義を唱和し意識するなど、日々努力を続けていると思う。